

「わたしの教育記録」特選作品発表！

全入選作品選評

今年度の「わたしの教育記録」特選作品を発表します。
その前に4人の審査員の方々から、入選作品についての選評を伺いました。

児童生徒の取り組みのプロセスや成果を示し 振り返りを行っている記録



東京大学大学院
教育学研究科教授
秋田喜代美さん

第53回も、その先生ならではの知恵から生まれた創造的な実践記録が受賞をされた。特選、特別賞は、算数、国語の実践記録であり、30代、40代という中堅教員の挑戦である。特定の時間や単元の取り組みではなく、日常的に積み上げた実践の重みを感じさせてもらえる実践であること、また教師の特定の指導法ということだけではなく、学習環境にも目を向けていることが特徴である。学びの習慣、深く考える思考様式を培う実践となっている点での共通性が見られる。

武田悠実践は初めて算数習熟度別担当者となった時の記録であるが、学級担任の時に行われてきたことがおそらく十二分に生かされたものとなっていると考えられる。算数学級通信としてそこに紹介されるノートづくりの工夫、そしてそれを紹介した学級通信が掲示

されることで、子どもたちにとっての学びの履歴や学習環境となっている。またそうした学級での共有化と同時に個々人が取り組む算数目標達成プロジェクトには、一人一人が自分で目指す活動とその歩みが見えるポートフォリ作りがなされている。そして保護者とも算数通信で共有化が図られている。1時間の学びをどのように学びの連続性につなげるのか、また一人の学びが仲間の学びへつながり、子どもの学びを保護者につなげるることによって、クラスの環、家庭との輪ができていく。つまり話し言葉での対話だけではなく書き言葉での対話も保障されている。そしてそれらの根拠や意味が丁寧な算数学級通信の紹介から、確かであることが伝わってくる実践であった。また菊池健一実践では、文章を書くことへの苦手意識克服を目指して、NIE、辞書引

き学習、接続語カードの活用などに取り組んでいる。個々の学習法は様々な学校でも取り組まれているものではあるが、それらを組み合わせることで学びの基礎を培いながら、書く機会を保障し、そしてその実践での効果の検証も学力テスト等も活用しながら行っている。この意味で、いずれの実践も指導だけではなく、児童生徒の取り組みのプロセスや成果を示し振り返りを行っている記録となっている。ぜひ今後応募される方には、指導とともにそこでの児童生徒の経験を見える化する点とで、その意味が伝わる論文を書いていただけるとよいと感じた。この意味でいずれの受賞論文も着想のおもしろさが受賞につながっていた。新学習指導要領改訂の年だったのでそれを意識した論文も多かったが、ぜひ独自性を生かした実践に挑戦していただきたい。

地道な実践記録の数々は 日本の教育の着実な前進を示している

今年も優れた実践記録を数多く読ませていただいた。美しい言葉やスローガンに振り回された感のある上滑りな記録も見られないではないが、入選した作品をはじめ、多くの作品から地道で着実な取り組みをうかがうことができ、非常に心強い。日本の社会も教育も

新しい展開を迫られている時期であるだけに、思いこみや流行に惑わされることなく、教育の王道を着実に進んでいっておられる教師の方々の存在に、嬉しい思いである。

今年も小学校の部の記録に良い作品が多い。特選の武田悠さんは経験12年で、35歳の中堅教師。教師人生で初めて算数専科担任となり戸惑ったけど、算数学級通信の発行や保護者

への情報提供、評価の工夫や学習環境の充実などを踏まえ、学習意欲を喚起し達成感のある授業に取り組みされた実践記録。ケレンミのない着実な実践である。

特別賞の菊池健一さんは経験年数18年、ベテランの域に入る教師。子どもの思考力・表現力を高めるために、NIEや辞書引き学習、接続語カードの活用などを日常的にやりながら、作文指導に力を入れている。地道な取り組みで好ましい。

入選の藤原友和さんも経験年数18年。新しい学習指導要領の眼目である「主体的・対話的で深い学び」をどう実現するか、国語と理科、総合的な学習で工夫した記録である。頑



兵庫教育大学前学長
梶田 叡二さん

張っていたが、一層の進展のため、各地の実践との経験交流も考えてほしい。

小学校からは、このほかに、新卒で経験4か月という松井香奈さんと、経験4年目の奈良史さんが新採・新人賞となった。いずれも若々しく意欲的な取り組みである。

中学校の部では、経験年数33年の大ベテラン、伊藤達也さんの新聞の活用による総合学習の実践記録と、経験年数10年の神沢博之さんの実践、養護学校の中学生への個別指導の記録が入選となった。状況や課題は異なるが、双方ともよく工夫された意欲的な取り組みである。

「やる気」を引き出す実践に手ごたえ

新しい学習指導要領の理念や方向性を先取りする意欲がうかがえる一方で、総合学習や言語活動あるいは学力の定着を地道に進め、かつ「やる気」を促す動きも目立つ。今回の応募実践には、そんな印象を強く受けた。

武田悠氏による「算数で子供が変わる!!」

『できた!』『わかった!』でつながら算数を目指して〜(特選)は、算数習熟度別指導を担当した中堅教師の奮戦記である。

子どもたちが学習の「見通し」を持てるよう算数学級通信を作成する。ポートフォリオ活動でチャレンジを促す。専科教室に用意さ



元読売新聞論説委員
永井 順國さん

れた計算ゲーム玩具が「学習スイッチ」の役割を果たしているというのも面白い。

菊池健一氏の「児童の『思考力・表現力』を高める授業実践研究」4学年の作文指導を取り上げて〜(特別賞)は、小4の作文指導で、言語活動を重層的に展開する、力のこも

った実践だ。

日常的にNIEに取り組み、加えて、知っている言葉を探す「辞書引き学習」や、表現活動に活用する「接続語カード」などを駆使して、作文への苦手意識が少しずつなくなっていく過程が目に見えてくる。

言語能力を高めようとする意欲は、伊藤達也氏の中1の授業「新聞を効果的に活用した総合的な学習の取り組み」学校完結型からの脱却を目指して〜（入選）や、松井香奈氏の

教育記録から伝わる熱い気持ちが魅力

教育記録は日々の実践を立ち止まって見直すことから始まります。子どもの成長に感動し、脆さや悩みに心を痛め、新しい方向を探る地道なものです。子どもの姿と学びにおける変容に手応えがある、そんな教育活動の熱い気持ちに魅力を感じました。

特選の武田悠先生の「算数で子供が変わる！！『できた！』『わかった！』でつながる算数を目指して〜」は、学級担任から算数少人数担当になったのを契機に、算数指導の専門性を生かしたとのことで、学級担任時代に積み上げてきた子ども理解、保護者連携の考えを「算数学級通信」を通して実践した、充実した内容でした。特別賞の菊池健一先生の「児童の『思考力・表現力』を高める授業実践

「楽しみながらかく力を育てることをめざして」（新採・新人賞、小2の国語・生活科・係活動実践）にも共通して見て取れる。

言語能力は、学力の出発点であり、到達点でもある。さらなる広がり期待したい。

藤原友和氏の「5つの工夫」で『主体的・対話的で深い学び』を実現する〜国語・理科・総合的な学習のカリキュラム・マネジメントを通して〜（入選）は、春の生き物の観察・記録活動をワークショップ、さらに国語の力

研究〜4学年の作文指導を取り上げて〜」は、接続語カード・ロジカルスピーチ・三行作文をはじめ、書く力を育てる指導と成果を丁寧にとまどめていました。入選の藤原友和先生の実践は、必要感・必然性のある学びを生み出すために国語科と理科、総合的な学習の教科横断的な指導でした。書く力を育てる面からは、評価基準に照らした実態とともに個別の課題表をつくり緻密な指導計画のもとで展開した授業に勢いを感じました。伊藤達也先生は、総合的な学習の実践でした。新聞スクラップノート作りでは、最初は、その日の切り抜きをするだけでしたが、自己分析の視点の取り入れや評価方法の工夫を通して生徒が変容する様子がよくまとめられ、学校完結型か

ルタづくりにつなげていく。子どもと教職員

の協働・対話の仕掛けづくりが巧みだ。

神沢博之氏の「医療的ケアの子どもに対する手だての一つとして」（入選）は、適度に体位を変えるための座位セットを、自ら考案・作成した点に驚かされた。

もう一人の新採・新人賞を受賞した奈良史氏には、新鮮な感覚の持続とさらなる飛躍を期待する。



元京都女子大学教授

吉永 幸司さん

ら、家庭・地域・社会へ発信する活動へ広がる学習の成果が伝わってきました。神沢博之先生は、様々な要因により、自力で理想の体位にならない子に対して安定した座位を取らせる取り組みの記録です。専用の座位セットに対する3年間の取り組みに多くのことを学びました。新採・新人賞の奈良史先生は、自らの先行実践が教師主導であったことを反省した分かりやすい授業です。スーパーマーケットの当事者意識を理解するために、店員になりきるといふ学習活動に勢いがありました。松井香奈先生は、書くことを大事にした学習指導と学級経営の実践です。子どもに寄り添った授業の場面や学習過程の様子が伝わってくる文章で、これからの実践に期待します。